



6月15日(日)実施  
「医療経営士」  
資格認定試験の  
合格者を発表

## 2級試験の合格率が大幅に低下 病医院勤務者の苦戦が目立つ

一般社団法人日本医療経営実践協会は7月15日(火)、第29回「医療経営士2級」および第45回「医療経営士3級」資格認定試験(ともに6月15日(日)実施)の合格者を発表した。2級試験(全国11会場)は308人が受験し57人が合格。3級試験(全国26会場)は1167人が受験し424人が合格した。両試験の結果詳細を掲載する。

### 2級試験合格率は前回比で10ポイント以上低下

受験者308人のうち57人が合格、合格率は18.5%(前回28.9%)となり、前回から10ポイント以上低下する結果となった。合格者が20%を割り込むのは2012年6月の第3回試験以来13年ぶり、過去3番

目に低い数字となっており、これまでどこまで大きく合格率が下がったことはなく、この傾向が一過性のものであるかどうかも含め次回10月の試験の結末に注目したい。

年代別では受験者数が40代に次いで多い50代において合格率が14.9%と他の年代と比べて5ポイント以

### 3級試験合格者は病医院勤務者がトップ

受験者1167人のうち424人が合格、合格率は36.3%(前回36.1%)となった。

上低く、苦戦した様子が見え、勤務先別では、受験者数が最も多い病医院勤務者において合格率が13.6%となり、全体の合格率を下げる要因となった。

年代別に見ると、受験者、合格者ともに40歳以上49歳以下が最多、次いで30歳以上39歳以下となり、これまでの傾向どおりとなっ

ている。年代ごとの合格率は全年代で30%台となり大きな差はなかった。勤務先別で見ると受験者数は医薬品製造・卸売が最多で全体の40%を超えているが、合格者数では全体の3割に届かず、合格率も26.4%と最も低い結果となった。合格者数が最も多かったのは病医院勤務者で、合格率も46.6%と高くなっている。人数は少ないものの大学生・短大生では55.6%の合格率となり、その存在をアピールする結果となった。

**【表1】 第29回2級試験および過去試験累計 結果概要**

	第29回試験	第1~29回試験累計
受験者数	308人	10,474人
合格者数	57人	2,879人
合格率	18.5%	27.5%

**【表2】 第29回2級試験 年代別構成**

年代	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	17人	4人	23.5%
30歳以上39歳以下	76人	16人	21.1%
40歳以上49歳以下	114人	23人	20.2%
50歳以上59歳以下	94人	14人	14.9%
60歳以上	7人	0人	0.0%

**【表3】 第29回2級試験 勤務先別構成**

勤務先	受験者数	合格者数	合格率
病医院	110人	15人	13.6%
医療関連企業	64人	15人	23.4%
医薬品製造・卸売	79人	16人	20.3%
医療機器製造・販売	7人	2人	28.6%
金融機関	20人	4人	20.0%
大学生・短大生	0人	0人	0.0%
その他	28人	5人	17.9%

**【表4】 第45回3級試験および過去試験累計 結果概要**

	第45回試験	第1~45回試験累計
受験者数	1,167人	61,891人
合格者数	424人	26,007人
合格率	36.3%	42.0%

**【表5】 第45回3級試験 年代別構成**

年代	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	243人	91人	37.4%
30歳以上39歳以下	303人	106人	35.0%
40歳以上49歳以下	348人	136人	39.1%
50歳以上59歳以下	248人	83人	33.5%
60歳以上	25人	8人	32.0%

**【表6】 第45回3級試験 勤務先別構成**

勤務先	受験者数	合格者数	合格率
病医院	290人	135人	46.6%
医療関連企業	203人	84人	41.4%
医薬品製造・卸売	473人	125人	26.4%
医療機器製造・販売	36人	10人	27.8%
金融機関	68人	25人	36.8%
大学生・短大生	9人	5人	55.6%
その他	88人	40人	45.5%

※2級および3級試験における勤務先別の「金融機関」は第3回(第6回)から、「医薬品製造・卸売」は第16回(第23回)から、「医療機器製造・販売」は第21回(第30回)から追加された(カッコ内は3級試験の試験回)  
※勤務先別の「その他」には、弁護士、税理士等の士業、建設会社等の一般企業が該当する

受験エントリーまでもなく締切! →7月30日(水)まで

# 第13回 医療経営士 1級 資格認定試験

試験日	受験形式	試験エントリー期間
第一次試験 9月7日[日]	①短文記述形式(10題・90分) ②論文記述形式(2題・90分)	7月1日(水)~7月30日(水)
第二次試験 12月7日[日]	面接試験 ①口頭試問(プレゼンテーション形式) ②個人面接	受験料支払締切日 7月31日(木)
		受験料 50,000円 <small>※税込、振込手数料別途(受験者負担)</small>
		試験会場 東京都(中央区内)

医療経営士の最上級位にチャレンジしよう!

T O P I C S

北海道支部が栄養経営士との合同セミナーを開催

# 医療経営士と栄養経営士が集い 協働による相乗効果への期待を語る

日本医療経営実践協会北海道支部では、7月5日(土)、日本栄養経営実践協会北海道支部の協力を得てシンポジウム「医療経営士&栄養経営士合同セミナー」持続可能な医療経営への挑戦・物価高騰下での栄養管理と経営最適化の探求」を開催した。会場とオンラインのハイブリッド形式で行われた、医療経営士と栄養経営士のコラボレーションの様をお伝えする。

## 栄養部門の現状を知り 栄養が持つ力を学ぶ

冒頭、開会の挨拶に立った田中繁道・北海道支部支部長(深仁会グループ会長)より今回のシンポジウムを企画した実行委員会についての紹介があり、「実行委員会に課せられた最も重要な役割は現場での課題を抽出し、解決していくための方策を探ること。今回、実行委員会による最初の企画として設定された栄養管理と経営最適化の探求はまさに時宜を得たテーマであり、栄養経営士とのセッションを通して「想いの見える連携」を構築してほしい」と参加者へメッセージが送られた。

基調講演「今こそ実現する！ 医療経営と栄養経営の相乗効果」では日本栄養経営実践協会の宮澤靖代表理事が登壇した。宮澤氏は昨年、今年と入院時食事療養費が上がったものの現場では焼け石に水であり、現

状のクオリティを保ったままこれからも食事を提供し続けることは非常に厳しい状況になっているという現状を伝えた。

さらに労働人口も減少していくなかでこれからの病院給食については、今後セントラルキッチンを設置して周辺の施設で共同利用していく形か、各施設で温めるだけでよい完調品を導入するかの2択しかないと言。病院給食の現状に一石を投じた。

続いて「栄養の力」として、命を育む、健康を守る、未来を創る原動力になるという3つを提示。栄養状態が良好だと入院日数が短くなり再入院が抑制され、1年後の死亡率にも大きな差が生じるという報告や、栄養士の介入により透析の導入を遅延、回避できるという事例を紹介したうえで、「施設内はもちろんだ地域内、そして全国で栄養というものをもっと大事にしていかなければならないと

いう機運を高めていくことが不可欠だ」と訴えた。

## 医療経営士の視点から 栄養部門の未来を考える

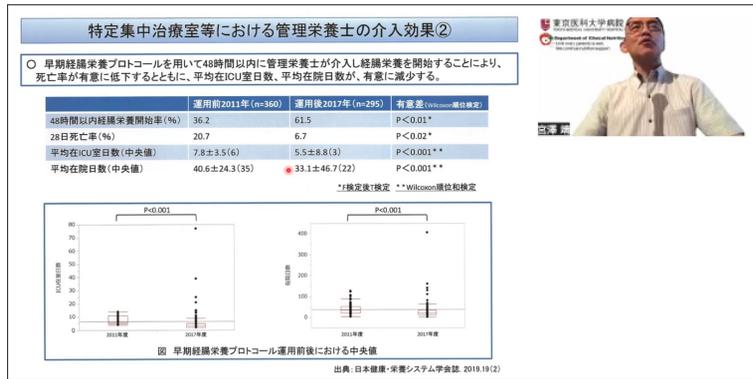
続いては医療経営士による演題発表として、医療法人仁会会法人本部長の平間康宣氏が登壇、「各部門の業績を見える化する取り組み」としてプレゼンテーションを行った。

平間氏は自法人で取り組んでいる部門別生産性管理システムであるPMシステムを紹介。同システムは京セラの稲盛和夫氏が発案したアメーバ経営をさらに進化させたもので、各部門の業務負担量を見える化すること、それぞれの部門が自立して生産性を高めていくことを目標としたもの。平間氏は「見える化によって明らかになったことをどう改善するのが大事。現場の行動変容につながるなくては意味がないので、医療経営士がどんどん現場に出て共に考えていくことが必要だ」と話した。

その後にはトークセッション「医療経営士×栄養経営士の相乗効果で探る持続可能な経営モデル」が行われ、宮澤氏、平間氏に加え

社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院頭頸部外科・耳鼻咽喉科部長で医療経営士と栄養経営サポーターの資格を持つ今野信宏氏と医療法人深仁会手稲深仁会病院栄養部部長で栄養経営士の田中智美氏が登壇。両経営士がタッグを組んでいくことで期待できる相乗効果について活発な意見交換が行われた。

最後にはここ1年間に合格した北海道内の医療経営士と栄養経営士の紹介も行われた。今回の合同セミナーを契機として、両経営士の交流がさらに活発化し、この流れが全国へと広がっていくことを期待したい。



具体的なエビデンスを提示しながら栄養部門の病院経営への貢献度を示した宮澤氏

# 最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く「経営の時代」の羅針盤

## PHASE3

フェイス・スリー

8月号

好評発売中!!

**特集** 病院は生き残れるか  
高まる医療経営士の存在価値

病院経営が立ち行かなくなり、ある日、地域から病院が突然なくなってしまう。こうした危機的な状況に対し、医療機関はどう備えればよいのだろうか。またそのなかで医療経営士は何をすべきか。伯鳳会グループの古城資久理事長、独立行政法人労働者健康安全機構中部ろうさい病院の佐藤啓二名誉院長・顧問、朝日大学の友友克之学長、デロイト トーマツリスクアドバイザー合同会社の古株靖久ヘルスマネージャーの4名による緊急座談会を開催、これからの厳しい病院経営の処方箋について語っていただいた。

詳細・ご購入は  
コチラ

【お問い合わせ先】株式会社日本医療企画 ☎03-3553-2861 <http://www.jmp.co.jp>

# 第28回みやぎ仙台ネットワーク 法人内外へ向けた広報戦略としての クラウドファンディングの活用を学ぶ



日本医療経営実践協会東北支部みやぎ仙台ネットワークは6月20日(金)、社会医療法人大雄会医療技術部局長兼大雄会第一病院事務長の日比野友也氏を講師に招き、28回目となる研究会「大雄会第一病院の新たな挑戦について」をオンラインで開催した。昨年法人施設の機能変更を実施、合わせて行ったクラウドファンディングで送迎車の増車プロジェクトを成功に導いた日比野氏の手腕を学ぶため、全国から医療経営士が参加した研究会の様子をお伝える。

## 今後求められる医療機能に合わせ 施設の機能変更を決断

登壇した日比野友也氏は、昨年9月に実施した法人内の3施設(総合大雄会病院、大雄会第一病院、大雄会クリニック)の機能変更について、その背景となっている外部環境の整理から講演をスタートした。自院のある尾張西部医療圏の人口や医療受給の予測値を示しながら「高齢者に対する医療、特に在宅医療の充実が急務であり、医療の提供側としてはある意味ビジネスチャンスともいえる。そういう状況を踏まえて機能変更を行うことにした」とその経緯を解説した。

続いて日比野氏は機能変更の具体的な内容を紹介。総合大雄会病院はこれまでの「急性期+回復期」から「高度急性期+急性期」に特化する形へと変換。大雄会第一病院はそれまでの急性期から亜急性期と回復期を診る病院に機能を変え、外来機能はクリニックへ移し、総合病院からリハ機能を移動、加えて総合診療科の拡充を図り、回復期(地ケア・回りハ)、緩和ケア病棟等を併設したケアミックス病院に変更したと話した。

合わせてスタートしたのが、入院患者を対象に高齢者施設や他院への送迎サー

ビスだ。病院の看護師と運転手が迎えに行き、施設職員との申し送りをし、施設内搬送して車に乗せ、病院に連れてくるもので、施設からは「付き添いの時間がなくなってありがたい」「看護師がいるので安心」「敷居が高いと感じていたが介護施設と病院との心の距離が縮まった」という声が届き、方向性が間違っていないことを確信。サービスの拡大に向けてクラウドファンディング(以下、クラファン)による送迎車の増車プロジェクトを行うことになったと経緯を説明した。

## クラファンを広報戦略として用い 職員の意識改革を実現

とはいえ、単に集金目的でクラファンを行ったわけではないという日比野氏。今回の機能変更にあたって内部環境分析をしたところ、法人内での回復期医療への理解と共感の不足が変革の定着を阻む最大の課題だとわかり、その解決策を検討するなかで、機能変更の意図を職員一人ひとりが理解し、自分事として捉えることが必要だと痛感。そのために「チーム一丸となってお祭り騒ぎみたいにやれて、成果が目に見えるもの」としてクラファンという手法を思いついたと話し、「あくまで院内外の広報戦略の一環。地域住民

に対して当院の機能変更と重要性の周知、さらに法人内での回復期への理解促進が最大の目的であった」と訴えた。

実際にクラファンを通して、資金調達の目的も達成できたが、職員の理解が深まり、法人内での機運の高まりを感じられたと話した日比野氏。最終的な集計金額を支援者ベースで見ると地域住民・患者、職員関連で60%以上を占める結果となり、「広報戦略という面で考えるとよかったのではないかと振り返った。

日比野氏は最後に「クラファンの成功は変革のスタートであってゴールではない。今後も地域医療のHUBホスピタルを目指して改革を進めていきたい」と述べ、講演を締めくくった。講演後には質疑応答が行われ、マスコミへの対応や院内での空気の醸成について等、クラファンを実践していくうえでの具体的な質問が出るなど、関心の高さをうかがわせた。



クラファンへの関心の高さもあり、多くの参加者が日比野氏の話を耳を傾けた

新年度からの研修教材として最適！ オンデマンド職員研修講座シリーズ

好評配信中！

日本ヘルスケア  
経営学院  
公開講座

# 新入職員研修 ミドルマネジャー研修 WEB講座

講座概要



● 講師  
石井富美氏  
(多摩大学医療・  
介護ソリューション  
研究所副所長)

【新入職員研修WEB講座(全6回)】  
● 講義時間… 各回約20分  
● 受講料… 各回 :1,100円  
3回セット :2,750円  
全6回セット :4,950円

【ミドルマネジャー研修WEB講座(I/II)】  
● 講義時間… 講座I: 約120分/講座II: 約90分  
● 受講料… 講座I: 7,150円/講座II: 5,500円/  
I・IIセット:11,000円

※講義終了後に内容の理解度が測れる「確認テスト」付き ※受講料はすべて税込



## 事務局 掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中  
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。



## 【お申し込み】

E-mail : info@jmmpa.jp

知っておきたい「医学の基礎知識」を  
DVDとテキストで効果的に習得できる  
「医療経営士」基礎力UP講座

当協会では医療経営士として知っておきたい医学の基礎知識を効果的に学べる「基礎力UP講座」を開講しています。テキストとDVDを通して事務職や他業種の方が、医療専門職

との連携やコミュニケーションにおいて必要不可欠な医学知識や医療用語を平易かつ効果的に学習できる仕組みになっています。詳細はホームページにてご確認ください。

## 【医療経営士「基礎力UP講座」】

http://www.jmmpa.jp/support/

tsushin/up/

TEL : 03-3553-2906

## PICK UP 研究会

## 第39回関西医療経営勉強会

なにわの下町で取り組む病院改革  
～過去・現在、そして未来へ～

2017年4月に発足して以来、継続的に勉強会を開催してきた関西医療経営勉強会。第39回となる今回は、医療法人嘉健会思温病院理事長・院長でファルメディコ株式会社代表取締役社長も務める狭間研至氏を講師に迎え、「なにわの下町で取り組む病院改革～過去・現在、そして未来へ～」と題した講演を行います。

思温病院は2014年に事業承継を受け、2016年より同名称での診療をスタートさせました。新病院としてのスタートから理事長として経営の舵を取ってきた狭間氏。主に救急医療を担っていた病院を急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟を

持ち多様な医療ニーズに対応できるケアミックス型の病院として生まれ変わらせ、地域に密着した病院として経営を行ってきた狭間氏から、その内情をじっくり聞ける貴重な機会となりそうです。

関西医療経営勉強会の開催は約1年ぶりとなります。参加費は無料、オンライン開催なので全国どこからでも参加できます。下記QRコードからPeatixのページに入りお申込みください。

開催概要 ■日時:2025年9月6日(土) 17:00~18:30

■形式:オンライン(Zoom)

■定員:80名程度

■参加費:無料

■お申込み・お問い合わせ先:

関西医療経営勉強会事務局(社会医療法人甲友会

西宮協立脳神経外科病院安全管理室内)

担当:前田哲 maeda.s@nk-hospital.or.jp

詳しくは  
こちらから

## 日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
8月8日(金)	東北	第29回みやぎ仙台ネットワーク 「医療経営士と若手総合診療医がつむいだ2年間」 一人のできる事、チームで挑んだこと、 地域に根差した病院再建の実例	金子高志 氏(ひなた在宅クリニック 経理/連携担当) 平川貴規 氏(光ヶ丘スペルマン病院 院長補佐)
8月22日(金)	関東	神奈川研究会「合格者のつどい」 1. 協会および医療経営士についての説明 2. 医療経営士自主研究会の紹介 ほか	金城悠貴 氏(済生会神奈川県病院経営戦略課 管財課) ほか
9月6日(土)	関西	第39回関西医療経営勉強会 「なにわの下町で取り組む病院改革 ～過去・現在、そして未来へ～」	狭間研至 氏(医療法人嘉健会思温病院理事長・院長、 ファルメディコ株式会社代表取締役社長)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

## 第14回 全国医療経営士実践研究大会 神奈川大会

大会テーマ

開催日

2025年  
11月22日(土)  
23日(日)

## 医療経営士の原点から考える未来

——強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント

大会運営委員長 | 三角隆彦 | 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県横浜市東部病院院長

会場 | ステーションコンファレンス川崎

大会特設サイトより  
参加申込受付中!

【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 taikai@jmmpa.jp